

ところざわ

霊峰富士
撮影 山口地区
粕谷 尚さん



新春討談

「所沢の昔を尋ねて」

所沢市文化財保護委員・国学院大学院講師

大館右喜氏をお迎えして

おお だち う き
大館 右喜氏

略歴

1933年（昭和8）＝所沢市北野に生まれる
1956年（昭和31）＝国学院大学文学部卒業
1958（昭和33）～86年（昭和61）＝本庄・豊岡・浦和一女各高校在職
国学院大学講師、徳川林政史研究所研究員兼務
1987（昭和62）～2002年（平成14）＝帝京大学文学部在職
この間、入間市文化財保護委員、埼玉県史委員
現在＝所沢市文化財保護委員、国学院大学院講師、NHK古文書講師など

主な著書・編著書

著 書／『幕末社会の基礎構造』『幕藩制社会形成過程の研究』
『近世関東地域社会の構造』
編著書／『論集日本歴史（幕藩体制ⅠⅡ）』『近世農事録』
『新修埼玉県史』『所沢市史』『東村山市史』その他



秋山理事長

島：明けましておめでとうございます。今日、お招きした大館先生は地元所沢ご出身の歴史学者であられ、中でも「幕藩制社会」にお詳しいと伺っています。秋山理事長も米沢藩士の後裔で、歴史には興味を持っておられます。今日はお二人で発展の著しい「所沢の変遷」ということをテーマに語り合せて頂ければ幸いと存じます。まず秋山理事長からご挨拶を兼ねて、当シルバー人材センターの概略を簡単に説明して頂きます。

秋山：新年おめでとうございます。当シルバー人材センターは昭和53年に発足し、今年の10月に25周年を迎えました。当会員は150名程で、今から思うとの



大館右喜氏

んびりした時代で、十分に仕事ができ
ました。やはり、こういう時代にな
りますと、会員も月に30名から入
ってきますから、仕事を公平にと知
恵を絞っています。常勤の就業開拓
推進員2名にも活躍して貰っていま
す。

所沢は東京のドーナツ圏として発
展が著しく、8割位の人が戦後、外
から入ってきたのでしょね。私な
どもそうですが、所沢の歴史を知る
機会も少ないので、先生のお話を楽
しみに伺いたいと思っています。

大館：理事長さんは米沢藩の士分と
いうことですが、ご先祖は何をして
いらしたのですか。米沢藩は上杉鷹
山とか興讓館等々、よく知られてい
る藩ですね。

秋山：奉行というのですか、今で言
う司法の職に就いていたようです。
父親から二言目には物を大切にし
ろ、とうるさく言われたものです。
古文書等は戦災で焼けてしまいまし
たけどね。

大館：所沢は農村ですから「農・
工・商」しかありませんでした。所
沢で唯一、江戸時代に士分にとりた
てられていたのは北野天神の神主だ
けですよ。

8代將軍吉宗の時、北野天神社は
目白で出開帳をやりました。天神社
の文化財を江戸に持って行って開帳
するのですが、江戸の大名の奥方達
は普段、外出できないので、開帳が
あると出かけて奉納などをしまし
た。天神社には前田利家の寄付した
ものがあります。元々、天神社とい
うのは菅原道真が神でし、加賀藩
は菅原家から出ていますから、前田
利家が寄付したものは道真の直筆
のお経など日本全国にはまずないよ
うなものがあります。今、県の指定
になっている「天神社の縁起」は国
の重要文化財に指定されるべきほ
どのものです。

所沢の歴史の始まりは関東ロー
層の薄片の石器、石斧に生活痕がみ
られますが、点々とある水辺の、水
田が作りやすい「谷津」に集落を形
成したようです。奈良・平安時代、
都は大いに栄えていましたが、まだ
その頃の所沢は竪穴式生活をしてい
たようです。所沢が歴史の上で名を
刻むのは鎌倉時代からといわれてい
ます。鎌倉武士は源氏を中心に展開
していきますから。そのうち武蔵の
武士も幕府を作ったりして、その後
は西国へどんどん出ていくようにな

ります。鎌倉のご家人は恩賞として
守護とか地頭という収入源を与えら
れますから、目先の利く人は埼玉か
ら離れてしまっているようですね。
鎌倉時代から南北朝にかけて有名な
のは1333年(元弘3年)の「小
手指ヶ原合戦」です。新田勢が衆川
から分倍河原、鎌倉へと突入し鎌倉
が滅びるわけです。所沢の先祖達が
現実合戦を担ったわけではないの
ですが、合戦の場所は所沢の台地で
した。当時の台地は草はあっても木
は僅かしかないので。武蔵野が雑
木林になるのは江戸時代ですから
ね。それまでは萱野です。大きな株
ができる萱なんです。それだと馬が
足を切って走れないんです。合戦が
できる場所は茅野なのです。所沢市
のお盆行事の飾りに茅で縄を縋いま
すね。その茅が武蔵野に自生してい
たのですね。茅と一緒に生成できる
のは赤松ぐらいしかない…。

元禄に三富が開発されますが、松
林と萱野です。混在したところもあ
りますが、その中でも松林が群生し
たところは開発されずに残っていた
んです。

秋山：徳川あたりからはつきりして
くると思いますが、当時の庶民や支

頌春



顧問	相談役	理事長	副理事長	専務理事	理事	監事
斎藤 博	高野 英二	秋山 脩	兼松 きのえ	田中文雄	上田勝紀	澤口富保
				島とみ	岸啓二	佐藤武夫
				山口博	五社よし子	押切辰弥
					九鬼春雄	西方喜一
					貫井弘久	岩渕淑子
					小檜山正幸	三上一雄
					斉藤武司	伊藤政一

配者層の様子はどうかだったのでしょうか。

大館：関東は天正18年（1590年）に家康が入ってきて、開けてきます。所沢もその頃から徐々に庶民の村が出来てくるということですね。家康の家臣団が知行地として村を貰いますから、それによって行政が成立するっていうことでしょうね。旗本と代官の支配地がありまして、入ってきた土地には有力な豪族が村を把握管理していました。その代表的なのは山口の小峰家です。そういった人に入会とかを管理させ、年貢も請け負わせていた、それがだんだん一般の行政村になっていきました。

又、検地があつて、村に従属して労働力を提供している人たちが、独立して本百姓になっていく、それが、江戸時代における所沢の始まりということですね。

1590年代には台地の上に集落はありません。安松、久米、三ヶ島、北野などどこを見ても谷津に南面するか、北面するかの集落です。谷津の田んぼ、そこで出てきた村が中心だったわけです。有力者を中心とする村ではなく、一般の農民を中心とする新しい共同体ができてきます。

そのうち薪とか肥料をとるために秣場^{まぐさば}をめぐるせめぎ合いが起ってきます。家光が亡くなった慶安から寛文、延宝、元禄にかけて、秣場をめぐる内部抗争が頻発してきます。島：元禄の頃、この辺の新田開発が進んだようですが。

大館：所沢では全国的に有名な三富新田が柳沢吉保によって進められました。柳沢が綱吉の理想を実現するために三富にモデル村を作ったのです。理想のモデル村でした。三富新田は畑作の理想郷開発という特異の形です。それまでは水田開発が多かったですからね。

柳沢は將軍綱吉に重用された人ですが、綱吉も犬公方^{くわほう}などと小説などで馬鹿にされていますが、儒学の教で政治をやろうと理想を追求した方です。柳沢が綱吉の理想に沿った形で、三富新田の開発に力を注いだのです。

寛文の検地は新田分から手をつけています。新田は天領を確認させるいい機会でもあったわけですね。

秋山：戦後の変わり様は急激ですが、その辺は。

大館：私は所沢に生まれ育って、現実に見えています。都市化の傾向は東

京周辺皆同じようですが、一番感じたことは新所沢に団地が出来たと。それから基地返還によって、都市整備の中心が基地跡に移ったことです。今、旧市街地の再開発が盛んになっていますが、市街地の中心からいえば、第3段階の変化かなと感じています。若いころ市役所で都市計画のアルバイトをしたから知っているのですが、当時、所沢駅を中心に放射線状に道路網を作るという都市計画が出来ていました。裏付けになる規制条例がなかったため、実現できませんでした。それが出来ていれば、道路や交通渋滞などこんなにひどくならなかったでしょうに。

秋山：先生はお仕事柄、若い人と接する機会が多いと思いますが、今の若い人たちの状況をどう思われますか。

大館：必然的な結果のような気がします。戦後浸透したアメリカ文化からの脱却がない限り、歯止めはきかないのではないのでしょうか。日本は伝統国家ですから、ヨーロッパに範をとればよかったと思います。

秋山：シルバーの会員は、少しでも社会のお役に立ちたいと頑張っていますが。

大館：私はシルバー会員の方に仕事をして頂いたこともあります。シルバー会員が生きがいを持って活躍されている姿は私の理想です。

島：日頃は知る機会の少ない所沢を、スパンを広げて振り返ることができ、本当に有益なひとときでした。もっとお話を伺いたいところですが、この辺で閉じさせて頂きます。今日のお話が新しい年に生きる私達の良い指針になることと信じます。有り難うございました。



申年生まれの会員の方から



山あり谷あり

三ヶ島地区 鈴木 勝子

私の人生84年を振り返ってみると平坦な人生ではありませんでした。

生まれ育った山形で結婚し、4人の子供に恵まれ幸福な日々を送っておりましたが、突然人生のどん底へ。主人の事故死です。主人は炭坑夫、落盤事故で即死でした。28才で4人の子供を残され、お先真つ暗で死ぬことも考える日々でした。

幸いにも働く場所があり人の優しさなどに助けられ、子供とともに乗り越えることが出来ました。炭鉱が閉山し、昭和35年息子も卒業、就職。私も同じ職場で働くことになったた

私の人生

富岡地区 片桐 義男

昭和7年長野県駒ヶ根に生まれ、37年まで地元で働きました。その年に上京し働いていたところ、長野の先輩に誘われ、今度は鎌倉に行つて15年間勤務しました。昭和54年所沢

め上京。以後4人の子供とよく頑張る、昭和40年今の場所に住まいを構え、所沢の住民となった次第です。

シルバーとの付き合いも昭和57年から。長いこと働かせてもらっています。現在「わかば児童館」で働いています。職員の方達の優しさに囲まれている上、四季の草花を植える楽しい仕事もあるため、今や私の生き甲斐になっています。

お陰で、余暇はカラオケ、旅行とまだ「楽しみ色々あり」です。今後とも体を気づかいながら頑張りたいと思っております。

人生いろいろ、山あり谷ありです。これからは平穏な日々を願いたいものです。

老いの中で

吾妻地区 中村 玲子

数年前、5・6年生ぐらいの女の子達が「エッ、エッ、昭和が先だっけ、明治が先だっけ？」と話しているのを聞いて、ハッと「昭和は過去の時代になってしまったのだ」と実感しました。今では平成も定着し、さらに二十一世紀を迎え、まわりの風景がすっかり様変わりしてしまいました。

パソコン、インターネット、携帯電話、デジカメなど次から次と想像もしなかったものが、すごい勢いで拡がってきたのですから…。

71年の間には歴史に残る様々な出来事を体験しました。

昭和15年、紀元二千六百年の提灯行列をした夜の記憶に始まり、翌16

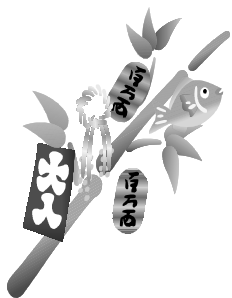
チズン時計会社の仕事があり、10年働きました。しかし、70歳が定年ということで、平成15年7月に辞めました。今は新所沢の公民館で働いています。時々、野菜や花を作つて楽しんでいきます。毎日ではないけれど、散歩をしたり又、自転車で1時間ぐらい走ったりしています。

年、戦争が始まった日のしづめるように寒い冬の朝。20年、戦争が終わった日「私たち一体どうなるの？」と不安に怯えた夏の暑い真昼の想い出。

戦後は高度成長や国外では不気味な米ソの冷戦がソ連の崩壊で終わったと思つたら、今は「アリババと40人の盗賊」のあのイラクに世界中が振り回されています。

私の場合は「歳をとる」とか「歳を重ねる」という気持ちより、残された年月が一年一年減っていくというマイナス思考が強く、だからこそ一日一日を大切に生きたいと願う今日この頃です。まだ、元気に働くことのできる健康とシルバー人材センターに感謝しております。

いろいろ書きましたが、この辺で終わりにします。



おじゃましまーす

職場訪問記 (26)

今回は所沢市に3ヶ所ある民俗資料館の一つ、大字亀ヶ谷にある「柳瀬民俗資料館」を訪問し、この資料館で働いている当シルバー人材センター会員の飯島善吾さんに仕事の内容や生きがいなどについて話を伺った。

この資料館は、昭和60年7月31日に開設された。展示室には地元住民から寄贈された作業着や照明具、食器類などの生活用品、トウミや縄編機、スキ、クワなどの農機具を中心に、旧柳瀬村関係の書類、教科書、古地図等の文献、消防器具などが展示されており、かつての暮らしぶりを知ることが出来る。その他、幕末から明治期にかけて活躍した武芸家磯谷有技の碑（市指定文化財）、日本で初めて発明された漏電警報機、昭和28年型オート三輪車など、こゝでしか見られないちよつと変わった品も数多く展示されている。

開館日は第1～4日曜日の午前8時30分～午後5時、入館無料。

飯島さんは中国の大連から引き揚

げて来られ、戦後は国鉄（現JR）に勤務。定年後シルバー人材センターの会員となり、平成4年8月からこの資料館に就業され今年で12年目になる。就業は開館日の月4日、自宅から約6km・20分の道程を電動自転車ですべて通っているそうだ。

来館者の受付、説明ガイド、館内外の清掃、管理の仕事をして一人で行っている。

館内を案内していただき、子供の頃によく見かけた農機具が所狭しと展示されていて、一つひとつが懐かしかった。

飯島さんは就業当初、来館者から聞かれても、十分に説明ができず苦



展示室内

短歌

気を合わせ孫とつきいる羽子の舞い

受けそこねては笑顔返す

所沢地区 小山 茂



飯島善吾さん

労したそうで、図書館に行つて農具の資料や本を読んで、自分なりに知識を得たそうです。「今では、展示されているものはだいたい説明出来るようにはなりましたが、まだ分からないことが多いですね。時々、来館者に詳しい方がいて、逆に教えられることもあります」「この仕事をやっていて、多くの人との出会いがあり、いろいろ勉強になって楽しいですね」と話された。

健康の秘訣を伺ったところ、若い頃から「西式強健法」の運動を朝夕続けているとの由。大正5年生まれとは思えないほどお元気で、爽やかな笑顔で親切に対応していただいた飯島さんに心から感謝し、今後も健康に留意され、益々活躍されることを念じつつ資料館を後にした。

（岩崎記）

はくぐだわー 薄学駄話

お雑煮

お正月の卓を囲んでいたくおせち料理は楽しいもの。中でも「お雑煮」は家や地方によって異なり興味深いものがある。大体関西では丸餅で味噌仕立て、関東ではすまし汁で切り餅、北日本では小豆汁を用いる所もあり、必ずしも一定していない。

長野安曇平地方ではぶり雑煮、東日本では鮭、西日本ではぶりを、その分岐点は大井川といわれている。

京都市近辺では丸餅



を使って味噌仕立て、福井の若狭ではこれに黒砂糖を二切れのせる。徳島祖谷山地方では里芋と豆腐を入れた雑煮で、お餅は入れない。

明治以前の日本人の食文化の中でアイヌや沖縄には雑煮はなかった。沖縄では今もないが、北海道にはある。明治以後、移住した人々によって持ち込まれた。韓国では年齢を聞く時「何杯雑煮を食べましたか」と言う。日本でも数え年だった頃、お正月は家族全員の誕生日、雑煮はその祝い碗であった。

奈良天理市には正月五日から七日までに市民約10万人にお雑煮を振る舞う宗教団体があるそうだ。彩りに使う水菜だけで約10トンというから、まさに日本一の豪華版かも。

（五社記）

健康一口メモ

保健師 和田喜美子

あなたの心臓を守りましょう



寒い時期には心臓発作を起こす人が多いようです。心臓発作とは胸の痛みを特徴とする「狭心症」と「心筋梗塞」をさします。心臓は「心筋」という特殊な筋肉でできており、心臓が動くときこの心筋が使われます。そのため、心筋自体にも酸素や栄養が必要で、心筋に酸素や栄養を供給している血管は心臓を取り巻いている「冠動脈」です。この冠動脈の一部が狭くなったり詰まったりすると血流が十分行き届かなくなり、心筋が酸欠状態や栄養不足になります。こうして起こる病気が狭心症や心筋梗塞です。

血流が悪くなる大きな原因は冠動脈の動脈硬化です。冠動脈の血管壁にコレステロールがたまり血管の内側が狭くなって血液

の流れが悪くなるのです。特に「高血圧」や「高脂血症」「糖尿病」があると動脈硬化が進み、血管壁が傷つき易い状態になります。症状はどちらも胸の痛みが起こってきます。

狭心症は①締めつけられるような痛み②主に運動時に起こる③痛みが短い。

心筋梗塞は①激しい痛み②運動にかかわらず起こる③痛みが長く続く。

これらは生活習慣病ですから、症状が現れる前に生活の改善でしっかりと予防しましょう。予防の柱は「禁煙」「食生活」「運動」の三つです。禁煙はもちろん、高カロリー食を控え魚や野菜を積極的にとり、無理をしない程度の運動を続けるよう心がけましょう。

合同で昨年11月に開きました。

一日は雨を予想していたが、心配無用の秋晴れに、来場者も前年度を上回りました。

反省会では「第24回フェスティバル実行委員会」の指示を厳しく守

市民フェスティバルの反省会

昨年10月25・26日に行われた第24回所沢市民フェスティバルについて、当センターの実行委員会は反省会を婦人部の役員・地区リーダーと

多くの意見や感想が出されました。特定のまとめは行いませんでしたが反省会の感触を含めて、PRの効果、フェスティバルへの参加可否、行事運営について会員主体への移行等、理事会でさらに検討が必要である」と田中実行委員長のお話でした。

(粕谷記)

に難しく習得に時間を要した。

最後に、掃除を全員で行ないアツという間に終わり、実習の成果が生かされた瞬間だった。

現在、清掃の仕事をされている会員の方は「時々、講習を受けることで自身の技術向上にも繋がり、今の仕事に活かされる」と話していた。

参加者のうち半数が清掃の経験が初めて。自在箒の掃き方、モップと雑巾での拭き方、カーペットのシミ落とし(写真)、ポリッシャーでの床磨き、掃除機掛けと全員が実習。初めはぎこちない動作が練習を重ねることに動きがスムーズになっていく。然しポリッシャーの操作は意外



今回実習した清掃の基本的なことを覚えておけば、一生使える技術だと講師は話された。

(岩崎記)

アースベース

ばね指について

富岡地区 佐藤 武夫

私はシルバー人材センターの幹旋で、ある小学校に夕方二時間の勤務をした経験があります。仕事の内容は児童が下校したあとの施設点検です。長期休暇中の窓ガラス拭きは業者が毎年実施しているが、廊下の内側は行われていませんでした。第二学期が始まり、児童が明るい感じで勉強できることが何よりと思い、夏期休暇中、約15日間出勤できるので、自発的に内側の窓ガラスを拭くことにし、毎年続けてきました。

平成14年度は出勤日数が少なかつたせいもあり、8月末に少し残ってしまい、急いで雑巾を使っているうちに、左親指の第二関節部分に少し痛みを感じ、仕事が終わり帰宅すると段々痛くなり、親指が下に曲がらなくなっていました。一週間様子をみたが同じ状態なので、病院で

診察してもらったところ、医師から「ばね指です。手の使い過ぎです」といわれました。10分位で終わる手術もあるらしいが、しばらく塗り薬で様子を見ることにしました。3

4回通院しましたが、昨年2月頃になると痛みが少なくなり、風呂から出て親指を下に曲げるとコツと音がして曲がり、元に戻そうとすると、コツと音がして戻ります。だんだん慣れてくるに従い、痛みもなくなり、普通の状態になりました。79歳にもなつて、このようなことが起こるとは夢にも思いませんでした。急激に馴れない仕事をやる時には十分気を付けなければならないと思いました。

年齢の点から昨年3月末をもって退職致しました。振り返ってみると10年間勤務しました。その間、体育館や4階建ての各教室を一巡することとは、健康的には最適であり、また職員室でひととき先生方と語り合うなど、よき人生を送ることができたと嬉しく思っております。

些細な体験ですが、仕事をするに当たっては十分気をつけていかねばならないと痛感した次第です。

武蔵野散歩

小平から玉川上水を経て野火止用水に至る一周20数キロのグリーンロードと呼ばれる綺麗な道がある。昨年の晩秋、武蔵野の自然を求めてその一部を友人と歩いてみた。西武新宿線の小平駅南口の商店街を左折し花小金井方面に5分程行くと「狭山・境緑道」の標識があり、ここからグリーン

ロードが始まる。道の中央部分はサイクリングロードになっており、両側には桜の古木が延々と続き、春には見事な桜のトンネルになるそうだ。野鳥の声を聞き、畑や自然林を生かした公園を見ながら歩くこと20分、「小平ふるさと村」に着いた。茅葺き屋根の軒下に干し柿や大根がぶら下がり、水車小屋などが見えたので中に入ってみた。約千坪の敷地に江戸時代の農家、天災・飢饉に備えて各村に備えられた穀びつ、玉川上水の開通に伴い開発された村落の復元住居などの他、明治時代の郵便局舎などがあり、当時の生活様式の

一部を見ることが出来る。この「ふるさと村」は小平市が武蔵野新田村落の文化遺産を後世に伝えて行くため平成5年5月に開村、市が管理員を募集し現在7名が市の嘱託職員として交替で勤務しているとの由。

＊入園料…無料 開園時間…10時～16時 休園日…月曜・第3火曜 一寸寄り道して近くの青梅街道沿いにある江戸時代の神社仏閣を見て行くことにした。

この辺りはケヤキ・クヌギ・イチヨウなどが自然林に近い形で残り、晩秋の冷たい風にハラハラと散る落葉風景は絵のように美しい。

(加藤記)



「適正就業推進委員会」の答申

委員長 澤口 富保

本誌第81・82号にも記載されていますが、平成15年1月「より公平な就業」をめざして「適正就業推進委員会」が11名で発足しました。

当センターの全会員を対象とした●就業・未就業の実状。●就業時間・日数。●配分金の実態と平均額。●公共・民間等の就業場所及び年齢等の現状を把握。それに基づいて①就業期限の設定②就業時間・日数の調整③配分金の少ない職種のバランス④ローテーション・ワークシェアリングの対象⑤就業年齢の制限⑥実施にあたっての経過措置等があらゆる方向から検討されました。また、他のセンターの実施状況なども参考にしながら活発に討議され、昨年12月事業部会へ答申しました。

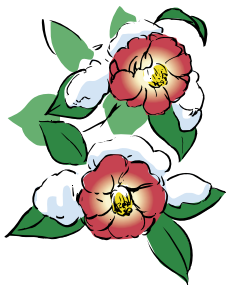
今後、理事会で検討し承認された後、会員の皆様に詳しくお知らせ致します。その節は是非ご理解とご協力をお願い致します。

《シルバー豆宣伝》

センター事務局のスタッフを紹介します



今年もよろしくお願い致します



就業される際にはご注意ください。
B5サイズの内紙は2月から使用できませんのでご了承ください。

婦人部日帰り旅行のお知らせ

今年度も女性会員の親睦を図るため、婦人部日帰り旅行を計画いたしました。定員になり次第締め切りますので参加希望の方はお早めに。

多くの方の参加をお待ちしています。

記

日時…平成16年2月20日(金)

集合…午前8時45分 旧庁舎1階ロビー

行先…吉川英治記念館(青梅市)

つるつる温泉(日の出町)

会費…3,000円

募集人員…30名

お知らせ

健康相談日

2月2日(月) 午後
3月1日(月) 午後
4月1日(木) 午後

●履行確認書の書式が変わりました

1月よりOCR(自動読込み専用機)の導入に伴い、履行確認書の書式が変更(A4)になりました。

「事務局でお渡ししています」

あとがき

◆「新春対談」で大館先生から所沢の歴史を学んだ。豊饒の大地を求めて新田開発に汗した私たちの先祖。時の為政者の英断。今、私達は果たして末広がりのレールに乗って走っているのか。後世の評価は疑問符。
(島)

◆地球温暖化が社会問題になってからかなりの年月が経過している。氷山崩壊、海面上昇、洪水などその大部分が「人災」に起因しているようだ。物質文明の執拗な追求は程々にしてもらいたいものだ。
(加藤)

◆昨年の暮れに知人からたくさんの「くさや」を頂いた。匂いには閉口するが、食ってみるとなかなか旨い。隣近所の迷惑をかえりみず、鼻をつまみ再度チャレンジしたくなる。
(粕谷)

◆私が住む近くにボーリングがされ温泉が湧出。「美肌の湯」の名で営業しており、月に一度は通っているが効果はあり?。今年は近隣の日帰り温泉めぐりを試みたいが、果たして何カ所行けるものやら。
(岩崎)